レスポンシブル・ケア報告書

2026

（2025年度活動報告）

地球の恵みを、社会の望みに。

エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル

Contents

トップメッセージ····· 1
RC活動の取り組み····· 2
労働安全衛生····· 4
保安防災····· 4
物流安全····· 5
化学品·製品安全····· 5
環境保全····· 5
品質保証····· 7
社会との対話····· 8

レスポンシブル・ケア

化学物質を扱うそれぞれの企業が、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを図る活動を『レスポンシブル・ケア（RC）』と呼んでいます。

編集方針

エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル株式会社は、発足して6年目を迎えました。当社はレスポンシブル・ケア（RC）を経営の重要課題と認識し、「労働安全衛生」「保安防災」「物流安全」「化学品・製品安全」「環境保全」「品質保証」「社会との対話」を7本柱としたRC活動を推進しています。

「レスポンシブル・ケア報告書」は、当社経営方針およびRC基本方針に加え、当社の取り組んでいるRC活動について広報する事、およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを促進することを目的として作成しています。

当社についてご理解を深めていただければ幸いです。

レスポンシブル・ケア報告書の対象範囲

報告対象期間　2025年4月 ～ 2026年3月
報告対象範囲　全社
発行年月　2026年8月
問い合わせ先　エア・ウォーター・
パフォーマンスケミカル株式会社
RC推進部
https://awpc.co.jp/contact/

トップメッセージ

代表取締役社長
工藤 公敏

当社はAWグループサステナブルビジョン「地球、社会との共生により循環型社会を実現する」に基づき、環境保全と地域社会の安全確保に取り組んでいます。

2025年度は、「安全をすべてに優先させる」という基本姿勢のもと、安全衛生および保安活動の強化に取り組みました。安全文化の醸成と災害の未然防止を目指し、安全活動の活性化やリスク低減活動を推進するとともに、保安活動の継続的な改善および事業継続体制の整備を進め、保安力の向上に努めました。また、化学物質管理や品質保証活動の充実、物流安全の向上、環境負荷低減への取り組みなど、レスポンシブル・ケア活動を総合的に推進しました。

本報告書では、こうしたレスポンシブル・ケア活動の取り組みを総括し、ステークホルダーの皆様に広くご理解いただけるようまとめています。今後も、レスポンシブル・ケア活動を着実に推進し、地球環境の保全と地域社会との共生を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

経営方針

創業者精神をもって
空気、水、そして地球にかかわる
事業の創造と発展に、英知を結集する

PHILOSOPHY

会社概要

会 社 名　エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル株式会社株式会社
所 在 地　川崎市川崎区千鳥町1番2号
創　　立　2021年7月1日
資 本 金　100百万円
事業内容　石油化学製品、無機化学工業製品、炭素製品、食品機能材料等の開発、製造及び販売
従業員数　約700名
株主構成　エア・ウォーター株式会社100%
売　　上　約321億円（2026年3月期）
事業拠点　本社・川崎工場：川崎市川崎区千鳥町 1番2号
湘南工場・湘南イノベーションラボ：神奈川県平塚市須賀 2700 番地
静岡工場：静岡県御前崎市池新田7950 番地の2
防府工場：山口県防府市鐘紡町3番1号
大阪支店：大阪市中央区南船場4丁目4番21号 TODA BUILDING心斎橋9F

ＲＣ活動の取り組み

RC基本方針

エア・ウォーター・パフォーマンスケミカルは、レスポンシブル・ケア（RC）を経営の重要課題と認識し、「労働安全衛生」「保安防災」「物流安全」「化学品・製品安全」「環境保全」「品質保証」「社会との対話」を７本柱としたRC活動を推進します。

法令遵守はもとより、適切な経営資源を投入し、継続的な改善を図ることにより、人々の生活の質の向上と持続可能な社会の実現に貢献します。

労働安全衛生方針

1.『安全をすべてに優先させる』ことを徹底し、従業員全員参加で、無事故・無災害の実現を追求します。
2. 作業環境を含め快適な職場環境の形成に努め、従業員の心と身体の健康増進に取り組みます。
3. 安全衛生に関わる関係法令・作業手順の遵守と安全衛生教育の徹底により安全文化を醸成し、安全・安定操業を維持します。
4. 安全衛生リスク低減と、管理体制の継続的改善を図ります。

保安防災方針

1. 事業場の火災、爆発、及び化学物質流出事故の防止、自然災害対策に努めます。
2. 保安防災に関わる関係法令等を遵守し、リスク低減活動を推進します。

物流安全方針

1. 製品の輸送、流通におけるリスクを低減し、物流安全確保を推進します。
2. 関係法令およびその他の要求事項を遵守し、製品輸送の安全確保に努めます。

化学品・製品安全方針

1. 研究・開発、生産・物流を含む全てのプロセスにおいて、取り扱う化学物質の危険性、有害性、環境影響の情報把握とリスク評価に努め、人々の健康の確保と環境負荷の低減を図ります。
2. 関係法規制及び業界基準に基づく製品含有化学物質管理体制を構築し、ステークホルダーの環境・安全・健康への配慮と適切な情報提供に努めます。

環境保全方針

1. 製品の開発から廃棄に至るまでの全てのライフサイクルにわたって、環境負荷の持続的低減に取り組みます。
2. 環境関連の法律・規制を遵守します。
必要に応じて自主基準を制定し、環境保護に取り組みます。
3. 事業活動に伴う環境影響に配慮し、地球環境対策や環境に影響を与える事故・トラブルの予防対策を推進し、信頼感のある事業所づくりを目指します。

品質保証方針

1. 製品･サービスに関するコンプライアンスを徹底します。
2. 顧客の期待と信頼にこたえる製品・サービスの提供により、顧客満足度の向上を目指します。
3. 品質管理の徹底と品質の継続的改善に取り組みます。
4. 食品用機能製品の安全性確保により「食の安全」に貢献します。

社会との対話方針

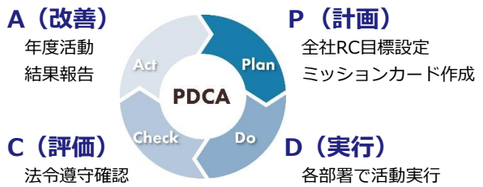
1. 情報の開示と対話を通して、ステークホルダーとのコミュニケーションに努めます。

RC活動サイクル

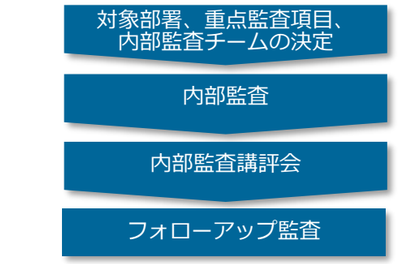
RC基本方針を実践するために、年度の全社RC目標を定め、各職場で具体的な活動を策定しミッションカードに落とし込んで活動しています。経営会議、リスク管理委員会、内部監査講評会等の定例の全社会議で日々の活動の進捗や課題を確認し、活動内容を見直すことでPDCAサイクルを回し、継続的改善を図っています。

また、毎年内部監査チームを編成して、７つのRC活動に対するRC内部監査を実施し、結果を経営陣に対して内部監査講評会で報告しています。指摘があった場合は、是正の進捗を監視し、フォローアップ監査を実施して、確実にリスクを低減しています。

RC基本方針　実践フロー



RC内部監査フロー



SDGsへの取り組み

2050年にエア・ウォーターグループが目指す姿“サステナブルビジョン”では、「地球、社会との共生により循環型社会を実現する」ことを掲げています。

当社でも2030年をマイルストーンと位置づけ、エア・ウォーターグループが掲げる「地球の恵みを、社会の望みに。」をSDGsコミュニケーションコンセプトに、事業活動を通じて持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みを進めています。

事業活動を通じて、循環型社会を実現すること（環境負荷をゼロ、地球環境の再生など）、地域社会や顧客から選ばれ続けること、働く人々のWell-beingを実現することなどを目指します。

気候変動への対応	温室効果ガスの排出を抑制し脱炭素社会の実現に貢献する
資源循環の実現	環境負荷を低減させた資源循環型社会の実現に貢献する
環境影響物質の削減	地球環境の保全により人と自然が共存できる社会の実現に貢献する
地域社会との共存共栄	イノベーションでより豊かで安全なスマート社会の実現に貢献する
ウエルネス（豊かな暮らし）	医薬、食で健康長寿社会の実現に貢献する
働く人々のWell-beingの実現	多様な働き方で誰でも活躍できる場を提供する

2025年度全社RC目標と達成状況

2025年度は「安全を優先する風土の定着」を全社RC目標に掲げ、労災防止と保安力の強化に重点的に取り組むとともに、その他のRC各分野の活動についても着実に推進してまいりました。
2026年度の目標は、2025年度 RC 活動の実績から継続すべき 活動を抽出し、発生したトラブルなどの分析結果および法律の改正など社外からの要求を踏まえたうえで設定しました。
本計画を着実に実施し、その継続的改善を進めてまいります。

RC活動	2025年度 目標	2025年度 重点施策	2025年度 実績	評価	2026年度 目標	2026年度 重点施策
1．労働安全衛生	休業災害・不休業災害ゼロ	・安全マイスター任命、3H時のKY強化 ・交通安全教育、通勤ヒヤリマップ見直し ・業務改革の推進	休業災害ゼロ、不休業6件	一部達成	・休業災害・不休業災害ゼロ ・通勤途上・業務中の交通事故ゼロ ・時間外・45 時間超回数の削減（対前年度）	・変更管理強化、事故事例の継承、改善力の醸成 ・交通安全教育の実施（事故事例活用・自転車の交通ルール） ・多能工化、自動化、DX化、業務棚卸しの推進
	通勤途上・業務中の交通事故ゼロ		通勤途上交通事故1件（被害）	未達		
	高ストレス者割合10%以下		高ストレス者割合19.1%（−2.1%）	未達		
2．保安防災	火災事故ゼロ	・6Sの徹底 ・爆発火災リスクの低減	火災事故1件発生	未達	・火災事故ゼロ ・保安重トラブルゼロ	・6Sの徹底継続 ・爆発火災リスクの低減継続
	保安重トラブルゼロ		保安事故2件、重トラブルゼロ	未達		
	自然災害発生時のアクションプランの見直し		大規模災害BCP策定済	達成		
3．物流安全	製品物流における環境・保安重トラブルゼロ	・輸送業者の監査実施による指導監視強化	物流における重トラブルゼロ	達成	・製品物流における環境・保安重トラブルゼロ	・輸送業者の監査実施による指導監視継続
4．化学品・製品安全	化学品に関する法令違反ゼロ	・化学品に関する法令遵守の徹底 ・新規、変更品の化学物質RAの徹底	法令違反ゼロ	達成	・化学品に関する法令違反ゼロ	・化学品に関する法令遵守の徹底継続 ・新規、変更品の化学物質RAの徹底継続
5．環境保全	環境事故・重トラブルゼロ	・新規/4M変更時の法令遵守確認の徹底 ・環境管理体制の推進	環境事故3件、重トラブル1件	未達	・環境事故・重トラブルゼロ ・GHG 排出量 8,467t-CO_2 の削減	・環境に関する法令遵守の徹底 ・生産性向上、省エネルギー機器及び再生可能エネルギーの導入諸施策の具現化
	エネルギー原単位 前年度比1%以上減		対前年3.3%増	未達		
	GHG排出量2020年度比15%減		対2020年度6.1%減	未達		
6．品質保証	重品質クレーム、重不適合ゼロ	・製造プロセスの安定 ・外注管理の強化	重品質クレームゼロ 重不適合2件（外注）	一部達成	・重品質クレーム・重不適合ゼロ	・製造プロセスの安定化 ・外注管理の強化継続
7．社会との対話		・RC活動の情報公開 ・ステークホルダーへの迅速な通報の徹底 ・地域との会話、社会貢献活動の継続	RC活動報告書HP公開済み	達成		・RC 活動の情報公開 ・ステークホルダーへの迅速な通報の徹底 ・地域との対話、社会貢献活動の継続
			迅速通報継続	達成		
			活動継続中	達成		

労働安全衛生

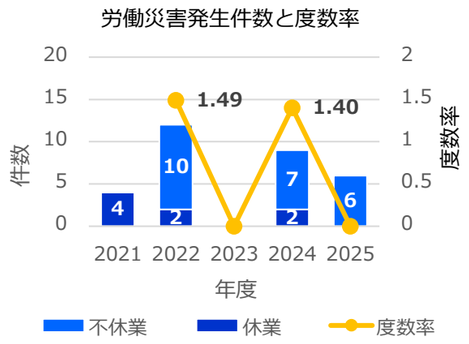
2025年度のトピック

2025年度は休業災害ゼロとなりましたが、不休業災害が6件発生し、目標未達となりました。労働災害や通勤災害の未然防止活動に引き続き取り組み、安全文化醸成に取り組んでまいります。

安全衛生の取り組み

労災発生状況

2025年度は、当社従業員の休業災害0件となり、度数率（100万 延べ実労働時間当たりの休業災害件数で、災害発生の頻 度を表す）は0となりました。一方、不休業災害は6件発生しました。労働災害は定修期間中に多く発生し、ベテラン作業員の被災も見られました。経験や慣れに頼ることなく、非定常作業に潜むリスクの低減と、安全文化のさらなる浸透が課題となっています。



度数率=1,000,000×(休業・死亡災害者数)/(延べ労働時間数)

安全意識向上にむけた取り組み

■安全マイスター制度導入および危険予知活動の推進

職場全体の安全意識と実行力を高めるため、各工場において「安全マイスター」を任命し、不安全行動への注意喚起や安全ルールの徹底、安全研修への参加促進、工場間での意見交換会の開催などに取り組みました。今後も、安全意識の向上と職場環境の改善に継続的に取り組んでまいります。

また気づき力向上のため、非定常作業や3H（初めて・変更・久しぶり）に該当する作業に使用するGKY（グループ危険予知）シートの見直しおよび全社統一を行いました。作業者全員で危険を共有することにより、ヒューマンエラーおよび労働災害の未然防止を図っています。

■業務改革の推進

安全意識向上策の一環として業務改革を推進し、各工場間の安全パトロール結果の横展開と指摘事項の共有を実施しました。さらに、改善進捗管理やデータ解析の省力化を図るため、自動化フォーマットを作成・共有し、安全活動の実行力向上につなげました。

安全表彰

1年間の取り組みの結果、ゼロ災（休業・不休業災害ゼロ）を達成した職場や、他の模範となる功労が認められる職場に対しては表彰を行い、さらなる安全意識の高揚や安全水準の向上を目指しています。

衛生活動

熱中症に関する労働安全衛生規則の改正に伴い、各工場の傷病発生時対応マニュアルを改定し、あわせて安全週間において熱中症の発症・重篤化防止に向けた対応を確認しました。今後も、職場の衛生水準の維持・向上を通じて従業員の健康確保に努めてまいります。

保安防災

2025年度のトピック

火災事故ゼロ、保安重大トラブルゼロを目標に活動を推進しましたが、2025年度は小規模火災事故が1件、保安事故が2件発生し、目標未達となりました。事故を真摯に受け止め、再発防止対策と保安活動の継続的な改善に取り組んでいます。

保安防災の取り組み

保安力向上の取り組み

当社では、2024年3月に発生した製造設備での小規模火災事故を契機として、再発防止策に取り組んでまいりました。2024年度に川崎工場で実施した中央労働災害防止協会の「安全診断」や保安力向上センターの「保安力評価」の活用を全工場へ展開し、現状レベルの把握と弱点の可視化に取り組みました。今後も「防災・危機管理意識の抜本的変革」を目指し、経営層・従業員の意識改革や、初めて・変更・久しぶりの3H時のリスク低減、安全設計や技術の伝承、教育などの課題に取り組んでまいります。

事業継続計画(BCP)の見直し

大地震や風水害などの自然災害、社会インフラ停止、事故・サイバー攻撃等の不測事態に備え、重要事業の継続および早期復旧を目的としたBCPを策定しています。基本方針、体制、対応手順を明確化し、継続的な見直しを通じて保安防災体制の強化を図ってまいります。

防災訓練の実施

当社は4つの工場があり、各工場の特色を考慮した上で、火災や地震・津波発生、化学物質の漏洩などを想定した様々な訓練に取り組んでいます。また関係官庁や地域の防災協議会との合同防災訓練にも積極的に参加し、防災に対する意識の向上を図っています。

川崎工場

小型消火器操作訓練

消火栓放水訓練

湘南工場

危険物安全協会の
消火器訓練・小型消防ポンプ訓練

静岡工場

避難訓練
(要救助者の救出)

御前崎市危険物安全協会、
御前崎市消防本部との
危険物流出防止拡大訓練

防府工場

南海トラフ地震を想定した避難訓練

物流安全

2025年度のトピック

製品物流における環境・保安重トラブル、荷役災害の発生はありませんでした。

物流安全の取り組み

輸送業者との連携強化

物流安全・物流品質の向上を目的として、川崎工場では輸送業者4社、湘南工場では8社に対して訪問監査を実施しました。また、品質監査や内部統制監査を通じて安全管理状況の確認と改善活動を推進するとともに、専用便運送会社への定期教育の継続実施や川崎市エコ運搬制度への協力を要請するなど、運送会社・協力会社との連携強化に取り組みました。

川崎市エコ運搬制度：荷主が運送業者へ環境配慮運搬（ CO_2排出削減を目的に効率的輸送や低公害車両活用）を要請する仕組み。

化学品・製品安全

2025年度のトピック

国内外の化学物質規制情報を継続的に収集・評価し、規制対応に起因する重大なトラブルは発生しませんでした。また、化学物質規制に関する社内教育の実施や届出・報告業務の確認体制強化を通じて、法令遵守体制の向上に取り組みました。

化学物質管理の取り組み

化学物質管理の全体像

当社では、新製品の設計段階から法規制の確認や環境への配慮に努めています。新たに取り扱う化学物質については、新規取扱い化学物質導入申請制度を設け、安全性の事前評価を実施するとともに、使用禁止および使用制限物質の製品への意図的混入を防止しています。

また、必要に応じて国内外の化学物質規制等の調査を実施し、法令や顧客要求への対応を検討しています。さらに、原材料の安全性情報を調達先から入手・管理し、化学物質の適切な保管や取り扱いなどに活用しています。

そして、お客様に当社製品を安全にご使用いただくため、SDS等を通じて適切な情報提供を行い、製品の安全な使用を支援しています。

法令遵守体制の強化

当社では、化学品・製品安全に関する法令遵守の徹底に向け、SDSおよびラベルの適切な作成・維持管理を行っています。また、労働安全衛生法に基づく化学物質リスクアセスメントを継続的に実施し、化学物質に起因するリスクの把握と低減に取り組んでいます。

2025年度は、化学物質規制に関する社内教育を実施するとともに、化学物質の届出・報告業務に係る申請フローを整備し、社内の確認体制を強化しました。また、法規制情報の共有を推進し、関係部門における法令遵守意識の向上にも取り組みました。今後も社内教育および管理体制の継続的改善を通じて、コンプライアンスの向上と化学品・製品安全の確保に努めてまいります。

環境保全

2025年度のトピック

環境事故3件、重トラブル1件が発生し、目標未達となりました。また、エネルギー原単位は前年度比で3.3%増となり、目標の1%以上減に未達となりました。 GHG排出量2020年度比6.1%減となり、目標の15%減に未達となりました。

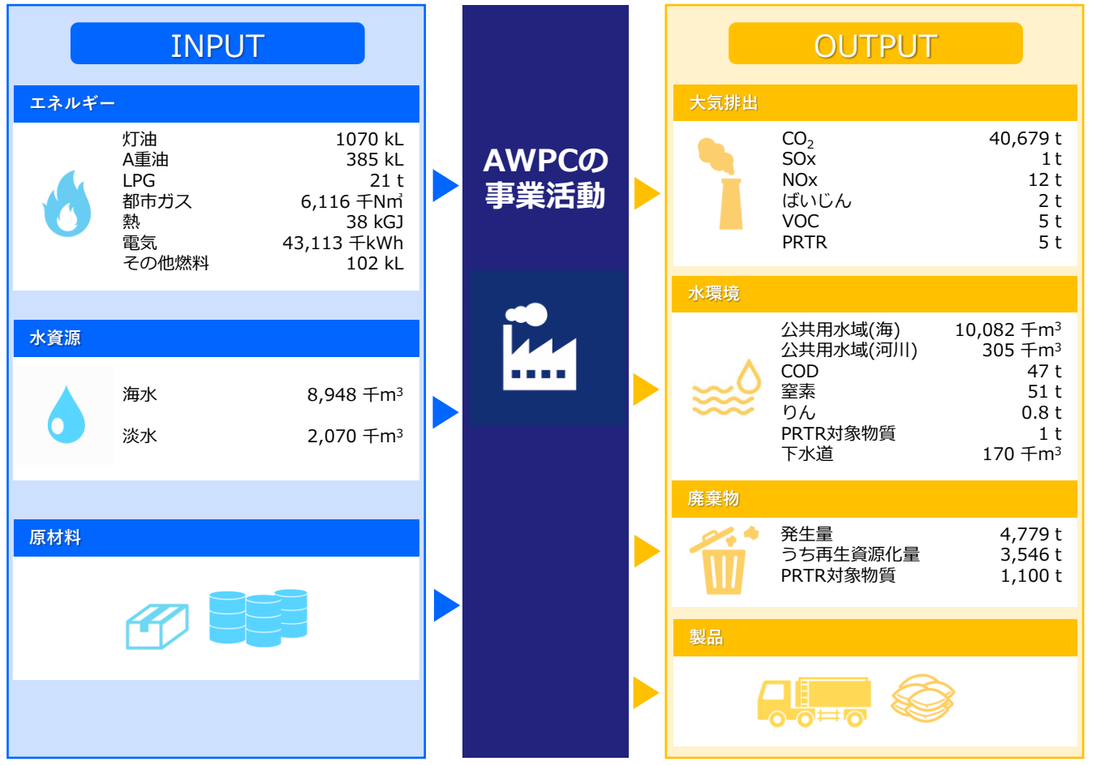
環境保全の取り組み

当社は環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を取得しています。また「RC活動・事業活動をSDGsと一体化させて取り組む」をSDGsテーマとして、毎年SDGsロードマップを作成し、事業活動を通して温室効果ガスの削減、省エネルギー、廃棄物の削減、水資源の保全等、SDGs貢献につながる環境保全活動を継続的に推進しています。

事業活動に伴う環境負荷の全体像

当社は事業活動の中で多くのエネルギー、化学物質、水資源などを使用しています。これらのインプットとアウトプットを把握し、化学物質の再利用や生産性を上げる取り組みにより、生産に関わる環境負荷の低減を目指して環境管理活動を推進しています。

2025年度の実績は、以下の通りとなりました。



温室効果ガス（GHG）削減にむけた取り組み

エア・ウォーターグループでは、2050年に自社の事業活動でのカーボンニュートラルを達成するとともにサプライチェーン全体でも脱炭素化を進めるべく、2030 年度に CO_2排出量（Scope１＋Scope２）を 2020 年度対比 30%削減するという目標を掲げています。

GHGプロトコルについて

GHGプロトコルとは、温室効果ガス（GreenHouse Gas：GHG）の排出量を算定・報告する際の国際的な基準です。サプライチェーンにおけるGHG 排出量を以下の Scope1、2、3の3つに区分 しています。当社ではGHG 排出量の削減に向けて、事業活動を通して様々な課題に取り組んでいます。

エネルギー原単位の削減

エネルギー原単位とは、ある一定の生産活動に必要となるエネルギーの使用効率を表す単位で、製造業においては生産性の指標です。

省エネ法で求められる1%以上削減の目標に対し、2025年度は全社として前年比3.3 %増となりました。

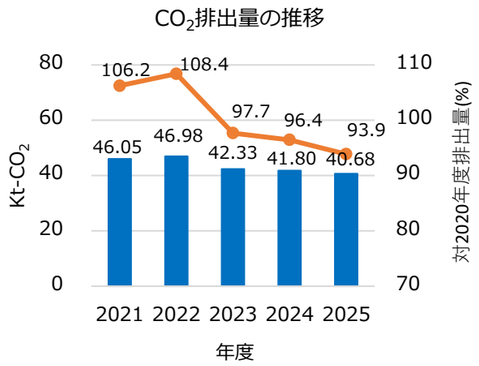
エネルギー原単位

事業所	対前年度%
川崎工場	105.1
湘南工場	97.9
静岡工場	99.0
防府工場	108.4
その他	92.2
全社	**103.3**

CO_2排出量の削減

当社ではScope1、Scope2のCO_2排出量の削減対策として、生産性向上や太陽光発電の導入などに取り組んでいます。静岡工場ではソーラーパネルを設置し、再生可能エネルギーの利用を始めています。また、湘南工場では地球温暖化や環境問題を考える平塚市の取り組み「ライトダウン平塚」に参加しています。

2025年度CO_2排出量は、2020年度比93.9%となりました。



Scope3排出量の削減

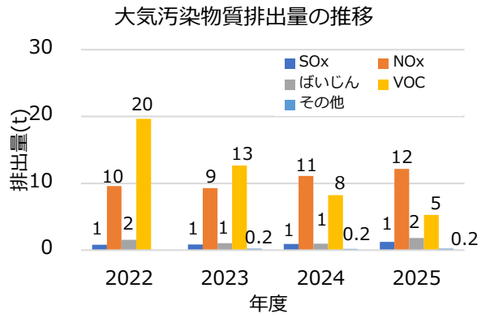
当社ではモーダルシフトやScope3排出量の算定を進め、サプライチェーン全体の温室効果ガス削減に向け取り組んでいます。2025年度は、車両から船舶輸送への切替えや、車両積載効率の向上を通じて、物流に伴う環境負荷の低減を推進しました。

Scope3排出量（t-CO_2）

Scope3カテゴリー		2025年度
1	購入した製品・サービス	156,663
4	輸送、配送（上流）	15,795
5	事業から出る廃棄物	4,709

大気汚染物質の削減

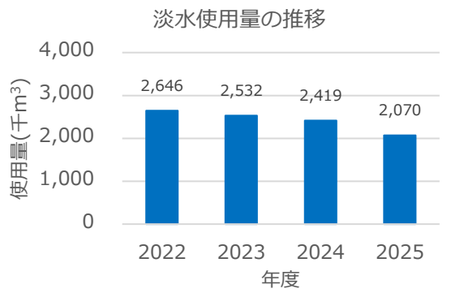
SOx、NOxは条例排出基準の規制値内の濃度でした。VOC（揮発性有機化合物）の大気排出量の削減に取り組んでおり、排ガス処理装置の老朽化更新や工程改善を行っています。



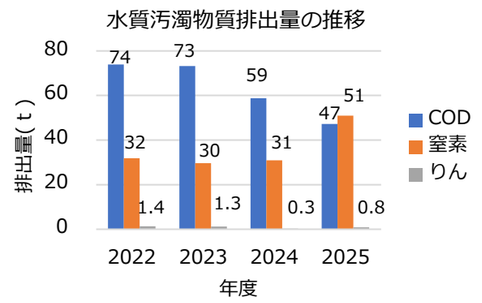
水資源の保全

当社では2030年の水資源の削減目標を対2022年度比で2%としています。

2025年度は対前年比14.41%減少しました。引き続き水資源使用量の削減や、排水の再利用などを行い、水資源の保全活動に継続的に取り組んでいます。



工場排水処理設備を適正に管理することで、公共水域へのCODなど水質汚濁物質の負荷量を低減しています。



PRTR対象物質排出量の削減

「PRTR」とは、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

当社ではPRTR対象物質の排出量の削減に取り組んでおり、PRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）に基づき調査結果を国に報告しています。

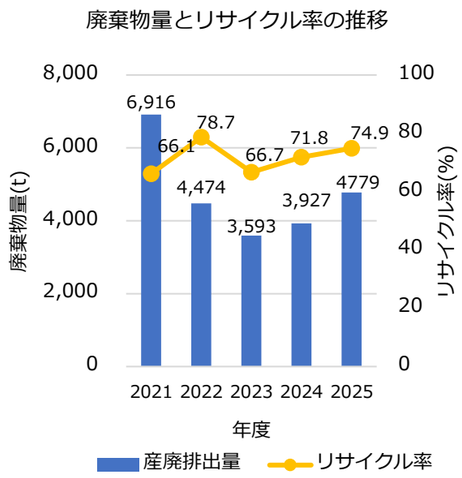
PRTR対象物質排出量(kg)

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
大気	20,133	12,842	8,406	5,491
水域	1,432	1,028	831	525
土壌	0	0	0	0
移動量	1,367,255	825,396	980,613	1,100,443

産業廃棄物の削減

当社では2030年の産業廃棄物のリサイクル率目標を79%とし、様々な活動に取り組んでいます。

2025年度のリサイクル率は74.9%となりました。引き続き製造プロセスの改善や内製化に取り組み、リサイクル率の向上を目指してまいります。



環境規制値の監視・遵守状況

環境に関する法令等規制は下記の通りです。環境規制基準の遵守に努めましたが、川崎工場において排水pH基準超過およびオイル流出が発生しました。発生要因の解析と再発防止対策を実施し、環境リスクの低減と管理体制の強化を図りました。引き続き法令遵守に取り組んでまいります。

分類	法令・条例	工場	測定項目	測定頻度	対象施設
大気	大気汚染防止法、川崎市条例	川崎	NOx、ばいじん	2回/年	ボイラー等 4基
			NOx、ばいじん	1回/年	プレヒーター 2基
			NOx、SOx、ばいじん、塩化水素、水銀	6回/年～ 2回/年	産廃焼却炉 1基
			ホルムアルデヒド	2回/年	排ガス燃焼装置 1基
			アンモニア、硫化水素	2回/年	脱硫設備
			キシレン	2回/年	排ガス設備等 6基
	大気汚染防止法	湘南	NOx、ばいじん	2回/年～ 1回/5年	ボイラー等 6基
水質	下水道法	湘南	pH、BOD、SS、N-ヘキサン抽出物質、アンモニア性窒素、亜硫酸性窒素、硝酸性窒素、硫化水素、等	1回/時間～ 1回/月	工場排水
	水質汚濁防止法、川崎市条例	川崎	pH、温度、温度差	1回/月、連続	
			COD、全窒素、全リン	1回/月、毎時	
			BOD、SS、N-ヘキサン抽出物質(鉱油類)、フェノール類	1回/月	
			COD負荷量、全窒素負荷量、全リン負荷量	1回/日	
	水質汚濁防止法	湘南	1,2-ジクロロエタン	1回/年	地下水等 5ヵ所
		静岡	pH、BOD、COD、SS、N-ヘキサン抽出物質、フェノール類、大腸菌数、窒素、燐、等	1回/時間～ 1回/半年	工場排水
		防府	pH、COD、SS、N-ヘキサン抽出物質、フェノール類、亜鉛、大腸菌数、窒素、燐、等	1回/月	
	瀬戸内海環境保全特設措置法	防府	総COD、総窒素、総リン	12回/毎日	
	水道法	湘南	一般細菌、大腸菌、カドミウム及びその化合物、水銀及びその化合物、セレン及びその化合物、等	1回/年	末端水栓
その他	騒音規制法	湘南	騒音	1回/年	敷地境界
		静岡	騒音	2回/年	
	振動規制法	湘南	振動	1回/年	
		静岡	振動	1回/年	
	悪臭防止法、川崎市条例	川崎	臭気指数	1回/2年	敷地境界、排水
		川崎	臭気指数	1回/年	排ガス設備 5箇所
	悪臭防止法	湘南	臭気	1回/年	敷地境界
		静岡	臭気	2回/年	
	浄化槽法	川崎	pH、DO、透視度、残留塩素濃度、BOD	1回/年	浄化槽 6個所
		防府	pH、DO、透視度、残留塩素濃度、BOD	1回/年	浄化槽
	神奈川県生活環境の保全等に関する条例	湘南	SOx、二酸化硫黄、アンモニア、硫化水素、塩化水素、MEK、トルエン、ホルムアルデヒド	1回/2ヶ月～ 2回/年	スクラバー等 14基
	ダイオキシン類対策特別措置法	川崎	排ガス、排水、燃え殻	1回/年	産廃焼却炉 1基

2025年度のトピック

重品質クレーム、重不適合ゼロの目標に対し、重不適合2件が発生し目標未達でした。顧客満足度の向上を目指し、優れた品質の製品を安定的に提供するよう、今後も品質マネジメントシステムの継続的改善や教育・啓発活動に取り組んでまいります。

品質保証活動

全ての事業所で品質マネジメントシステムの国際規格である、ISO9001を取得し、品質管理や品質改善活動を推進しています。今後も顧客満足度向上に向けて、品質マネジメントシステムの継続的改善に努めてまいります。

顧客満足向上への取り組み

当社では市場へ出荷する製品について、製品事故の発生を防止するため、設計開発の時点から関係部署で安全性をチェックし、関係部署長の承認を得て商品化するシステムを構築しています。新製品の製造開始時には、リスク把握としてFMEA（潜在的故障モード影響解析）を使用して不具合現象の発生を予防する検証を実施しています。日々の品質管理ではQC手法に加え、データの統計学的な解析に基づいて生産工程における問題を特定し、分析を行うSPC管理（統計的工程管理）を行い、品質の安定化を図っています。また、品質に影響を与える項目を変更する際は、4M変更として、品質・安全・環境・設備・化学物質管理影響の評価を実施しています。

品質リスク低減への取り組み

2025年度は重クレームゼロを達成しましたが、外注品で重不適合が発生し、外注先の管理強化が引き続き重要な課題であることを認識しました。課題解決に向け、外注先を中心に品質監査を実施しました。監査を外注先との貴重なコミュニケーションの場と捉え、製品の用途や顧客が要求する品質水準について丁寧に説明するとともに、品質に対する認識の共有を図りました。今後も継続的な取り組みを通じ、品質改善を進めてまいります。

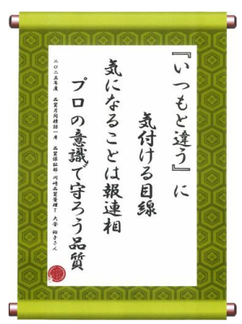
食品安全の取り組み

当社の食品添加物の製品をお客様に安心してご使用いただくために、川崎・湘南工場では「HACCP手法」に基づく食品安全衛生管理を実施しています。また湘南工場では「HACCP版食添GMP」を取得し食品安全衛生の取り組みを強化しており、主力製品の酢酸ナトリウムに関しては、「ハラール認証」を取得しています。

品質教育・啓発活動

階層別品質教育プログラムにより、QC７つ道具、衛生管理などの品質教育を25講座展開し、品質レベルの向上・製品事故の予防に向けて活動しています。また、過去のトラブル再発防止のため、トラブルカレンダーを全社で共有しています。

毎年11月には「品質月間」を開催し、品質意識向上の啓発活動を行っています。クレーム・不適合の年間集計結果報告や品質標語の募集、「計量強調月間」に合わせた社内イベントに加え、トレーサビリティ訓練を実施し、品質に関して幅広く考える機会としています。



2025年度
一席入選標語

社会との対話

RC活動のホームページ掲載の継続と、工場周辺の自治会との交流、近隣企業が参加する各種協議会に参加してコミュニケーションに努めました。会社を取り巻く様々なステークホルダーの中でも、特に地域社会との関わりを重視し、地域社会に少しでも貢献できるような活動を続けています。

情報公開

エア・ウォーターグループは2021年8年に金融安定理事会（FSB）により設置された「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」の提言への賛同を表明しており、提言に沿って2022年3月に情報を開示し、毎年更新を行っています。

当社のホームページ上で、製品の安全性に関する情報である製品のSDS（安全データシート）や、川崎工場における産業廃棄物焼却設備の維持管理状況に関する情報を積極的に公開し、社会との対話と透明性の確保に努めています。

献血協力

湘南工場

湘南工場では年２回、神奈川県赤十字血液センターからの要請に応じて、献血カーを受入れ、献血を実施しています。

環境美化・保全事業への参画

防府工場

防府工場では年に一度、正門周辺側溝の掃除と、除草作業を行っています。地域保全活動を実施し、地区の環境美化に力を注いでいます。

湘南工場

湘南工場では公害の防止や地域環境保全を目的に設立された「平塚地区環境対策協議会」の一員として、相模川の河原にあるひらつかアリーナ公園で地域の小学生とチューリップの球根植え付けや河川敷の清掃活動を行っています。

静岡工場

静岡工場では「新野川・筏川の自然を守る会」に参加し、環境美化活動やメダカ事業を通じて、地域の環境美化に貢献しています。

地域とのコミュニケーション

湘南工場

湘南工場では、工場周辺の自治会との定期的な交流会を開催し、当社の環境への取り組みを説明するとともに、意見交換を行っています。また、自治会消防訓練や地域美化活動にも参加し、地域とのコミュニケーションを大切にしています。

毎年開催している夏祭りには、従業員の家族や地域の方々など多くの方にご来場いただいています。当社への理解を深めていただくとともに、地域との交流を深める機会となっています。

地域防災

湘南工場

湘南工場は津波災害が想定される場合、鉄筋コンクリート4階建ての社宅を、津波避難ビルとして地域の方々に提供する協定を平塚市と結び（2012年2月15日）、社宅や独身寮の敷地の一角を、自治会の防災備品倉庫の設置場所として提供しています。

また、社宅にAEDを設置して地域のみなさんにも緊急時に利用できるようにするなど、地域のみなさんと共に地域の防災に取り組んでいます。

化学実験教室

防府工場

防府工場では毎年、防府市青少年科学館ソラールで夏休みに開催される「サイエンスアカデミー」に、近隣企業と共同で講師として参加しています。2024年度は「マイナス196度の超冷たい世界体験」をテーマに、液体窒素やドライアイスを用いた実験を実施し、約50名の小学生に科学の不思議を楽しんでいただきました。なお、実験に使用したドライアイスおよび液体窒素は、エア・ウォーターグループより提供いただきました。

湘南ベルマーレ応援

当社は平塚市にホームを置く「湘南ベルマーレ」をサポートコーポレーションとして応援しています。ホームゲームでは、多くのサポーターと一緒に応援しました。

ワクチン支援

本社・川崎工場

本社および川崎工場では、ペットボトルのキャップを集めて「ボトルキャップABCプロジェクト」に寄付しました。NPO法人を通じて、1,539人相当分のワクチン募金として、世界の子供たちへのワクチン支援に役立てました。

地球の恵みを、社会の望みに。

エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル

〒210-0865 川崎市川崎区千鳥町1番2号
TEL. 044-266-6351 ／ FAX. 044-276-1791

ホームページ　https://awpc.co.jp